

特 集

## 東 京 都 議 選

—物 量 戦 争—

6月26日告示されて以来、各党が激しい選挙戦を展開してきた東京都議会議員選挙。

新しい選挙戦術として注目されたピラ合戦、まき散らされた各党のピラで東京の街は埋め尽くされた。乱立する日章旗や、グリーン、橙色の小旗に街は異様な空気に包まれた。宣伝カーはボリュームいっぱい候補者を連呼、騒音が街を支配した。人海戦術もとられ、全国動員によって多くの人々が東京に押しかけた。

7月9日、全国民注目の中で行われた開票。苦戦が伝えられていた自民党は各選挙区で予想以上の善戦を続け51議席を確保し、ひとまず防戦を果たした。共産党は当初の予想ほどには躍進をとげなかったものの着実に議席を伸ばし、20議席台に乗せた。美濃部都政を支える社会党は革新ムードの票をつかみ切れず、20議席で都議会第4党に転落、大きな衝撃を受けた。この日行われた会見で田中首相は「選挙前のきびしい報道が党をひきしめる役立をした。50議席取ったことで自民党は健闘したと言われるかも知れないが、私自身必ずしも成功したとは思っていない。」また美濃部知事は「社共公の三党が圧倒的多数をしめたことはうれしい。自民党は一応50議席の現状であるし、これまでの都政の路線が大きく変わることはあるまいし、また都民も大きな変革は望んでいないようだ。」

—無 所 属 新 27 歳—

連日、各政党が、その組織力と金にもものをいわせて競い合ったピラ巻き合戦に都民は一樣に困惑した。それでも、あたかも物量が票に比例するかのように運動員はピラを巻きつけた。そのピラ巻き合戦の真中で、一人の青年候補は訴えつづけた。「ゴミ公害のなにもでもない。各戸配布で充分だ。そんな金があったら花の種やなえ木を配った方がよほど都民のためになる。」と。目黒区、立候補者藤田良三無所属新27歳。そして彼は自らホーキをもって、棄てられゴミとなったピラを黙々と拾いあつめた。

五大政党の党利党略で争われる選挙。法定選挙費用を無視し、五当四落などといわれるばく大な選挙費用が必要な選挙。こんな現状に怒りを押さえきれず立候補した彼。名もない金も力もない都民の誰れでも立候補できる選挙東京都という自分たちの住む地域の行政に、住民の声が反映されるような政治をつくり出すような選挙を彼は訴えつづけた。そのためにも、市民が今こそ政党に振り廻されない姿勢をもとうと商店街や区内の遊説で訴えた。理想選挙、これが彼の姿勢だった。

投票日の前日、追い込み体制とばかりに各政党の物量作戦は一段とその激しさを増した。物量戦争に明け暮れ選挙運動は終わった。バラ巻かれたピラは6億枚とも7億枚ともいわれた。首都の政治決戦といわれた今回の東京都議会議員選挙。目黒区藤田良三990票。彼の名前の上にバラの花が着くことはなかった。「五大政党の力の壁はたしかに厚い。理想選挙をすすめるためにはもっと住民の自治意識が高まらなくては……。決して無意味ではなかったと呟く彼。これからもくじける事なく放射線技士をやりながら地域からの運動をもりあげていきたいという。」

時代の流れを知らないといわれるかも知れない彼。しかしそれで片づけられるだろうか。政治の流れが変わったとしてもこれまでと変わらない100万人以上の選挙棄権者がいる中で。